年金記録訂正請求に係る答申について

関東信越地方年金記録訂正審議会
(茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、新潟県、長野県、山梨県担当部会)
平成 27 年 6 月 15 日 答申分

○答申の概要

年金記録の訂正を不要としたもの	2件
国民年金関係	2件

厚生局受付番号 : 関東信越(受)第1500042号
厚生局事案番号 : 関東信越(国)第1500001号

第1 結論

昭和44年12月から昭和47年4月までの請求期間、昭和51年7月から昭和52年4月までの請求期間、昭和54年4月から昭和61年3月までの請求期間、平成元年4月及び同年5月の請求期間、平成2年4月から平成6年2月までの請求期間、平成10年4月から平成11年3月までの請求期間及び平成13年4月から同年9月までの請求期間については、国民年金保険料を納付した期間に訂正することを認めることはできない。

第2 請求の要旨等

1 請求者の氏名等

氏名 : 女
基礎年金番号 :
生年月日 : 昭和24年生
住所 :

2 請求内容の要旨

請求期間 : ① 昭和44年12月から昭和47年4月まで
② 昭和51年7月から昭和52年4月まで
③ 昭和54年4月から昭和61年3月まで
④ 平成元年4月及び同年5月
⑤ 平成2年4月から平成6年2月まで
⑥ 平成10年4月から平成11年3月まで
⑦ 平成13年4月から同年9月まで

請求期間①については、私の実家は、自営業を営んでおり、実家の手伝いをしていたので、父が国民年金の加入手続及び保険料納付をしてくれたはずである。

請求期間②及び③については、私は会社を退職後、すぐに国民年金に加入し、保険料を納付していたはずであり、途中で納付をやめた記憶はない。

請求期間④、⑤及び⑦については、はっきりした記憶はないが、国民年金保険料を納付していたはずである。

請求期間⑥については、平成10年頃に、A市役所から来た集金人に自宅に保管していたお金から、家族4人分(私、長男、長女及び次女)の国民年金保険料を私の夫が納付したはずである。

請求期間が未加入や未納となっていることに納得できないので、調査の上、記録を訂正してほしい。

第3 判断の理由

1 請求期間①については、請求者は、請求者の父が国民年金の加入手続及び保険料を納付していたと主張している。

しかしながら、請求期間①については、請求者の国民年金の加入手続及び保険料の納付を行ったとする請求者の父は既に他界しており証言を得られず、請求者は、国民年金の加入手続及び保険料の納付に直接関与していないことから、これらの状況が不明である。

また、請求者の所持する年金手帳の国民年金手帳記号番号は、当該記号番号前後の任意加入被保険者の資格取得時期から、昭和52年5月頃に払い出されたものと考えられ、請求者の所持する年金手帳、A市の年金資格履歴及びオンライン記録では、同年5月2日に任意加

入被保険者となっていることが確認できることから、請求期間①は未加入期間であり、制度上、国民年金保険料を納付することができない。

さらに、オンラインによる氏名検索及び国民年金被保険者払出検索を行っても、請求者に別の国民年金手帳記号番号が払い出された形跡も見当たらない。

- 2 請求期間②及び③については、請求者は会社を退職後すぐに国民年金に加入し保険料を納付しており、途中でやめた記憶はないと主張している。

しかしながら、請求期間②については、上記1に記載したとおり、請求者の所持する年金手帳の国民年金手帳記号番号は、当該記号番号前後の任意加入被保険者の資格取得時期から、昭和52年5月頃に払い出されたものと考えられ、請求者の所持する年金手帳、A市の年金資格履歴及びオンライン記録では、同年5月2日に任意加入被保険者となっていることが確認できることから、請求期間②は未加入期間であり、制度上、国民年金保険料を納付することができない。

また、請求期間③については、請求者の所持する年金手帳、A市の年金資格履歴及びオンライン記録では、昭和54年4月20日に任意加入被保険者資格を喪失後、昭和61年4月1日に第3号被保険者になるまで、国民年金被保険者資格を取得した形跡が見当たらないことから、請求期間③は未加入期間であり、制度上、国民年金保険料を納付することができない。

- 3 請求期間④、⑤及び⑦については、請求者は、はっきりした記憶はないが国民年金保険料を納付していたはずであるとしている。

しかしながら、請求者は保険料納付に関する記憶が明確でなく、国民年金保険料を納付していたことをうかがわせる具体的な陳述が得られない。

- 4 請求期間⑥については、請求者は平成10年頃にA市役所から来た集金人に自宅に保管していたお金から、家族4人分（請求者本人、長男、長女及び次女）の国民年金保険料を請求者の夫が納付したはずであると主張している。

しかしながら、国民年金保険料を納付していたとする請求者の夫は既に他界しその証言を得ることができず、請求者からも請求期間⑥の保険料を納付していたことをうかがわせる具体的な陳述が得られない上、請求者が一緒に保険料を納付していたはずであると主張する請求者の家族（長男、長女及び次女）のオンライン記録は、請求者を含め全員が未納であることが確認できる。

- 5 そのほか、請求者が、請求期間①から⑦の国民年金保険料を納付していたことを示す関連資料（家計簿、確定申告書等）はなく、ほかに保険料を納付したことをうかがわせる周辺事情も見当たらない。

これら請求内容及びこれまで収集した関連資料、周辺事情を総合的に判断すると、請求者が請求期間の国民年金保険料を納付していたものと認めることはできない。

厚生局受付番号 : 関東信越(受)第1500043号
厚生局事案番号 : 関東信越(国)第1500002号

第1 結論

平成10年4月から平成11年3月までの請求期間及び平成12年4月から平成13年3月までの請求期間については、国民年金保険料を納付した期間に訂正することを認めることはできない。

第2 請求の要旨等

1 請求者の氏名等

氏名 : 男
基礎年金番号 :
生年月日 : 昭和52年生
住所 :

2 請求内容の要旨

請求期間 : ① 平成10年4月から平成11年3月まで
② 平成12年4月から平成13年3月まで

請求期間①については、私は、平成10年頃にA市役所から来た集金人に、家族4人分(請求者本人、母、長姉及び次姉)の国民年金保険料を私の父が納付したはずであると私の母から聞いている。

請求期間②については、詳細は不明であるが、私の国民年金保険料を私の母が納付していた。請求期間①及び②の保険料が未納となっていることに納得できないので、調査の上、記録を訂正してほしい。

第3 判断の理由

請求期間①については、請求者は、平成10年頃にA市役所から来た集金人に、家族4人分(請求者本人、母、長姉及び次姉)の国民年金保険料を請求者の父が納付したはずであると請求者の母から聞いたと主張している。

しかしながら、国民年金保険料を納付していたとする請求者の父は既に他界しその証言を得ることができず、請求者からも請求期間①の保険料を納付していたことをうかがわせる具体的な陳述が得られない上、請求者が一緒に保険料を納付していたはずであると主張する請求者の家族(請求者の母、長姉及び次姉)のオンライン記録は、請求者を含め全員が未納であることが確認できる。

請求期間②については、請求者は、詳細は不明であるが、請求者の母が国民年金保険料を納付したと主張している。

しかしながら、請求者の母から国民年金保険料を納付していたことをうかがわせる具体的な証言が得られず、請求者は保険料の納付に関与していないことから、これらの状況が不明である。

そのほか、請求者が、請求期間①及び②の国民年金保険料を納付したことを示す関連資料(家計簿、確定申告書等)は無く、ほかに保険料を納付したことをうかがわせる周辺事情も見当たらない。

これら請求内容及びこれまで収集した関連資料、周辺事情を総合的に判断すると、請求者が請求期間の国民年金保険料を納付していたものと認めることはできない。